

要介護世帯のごみの戸別収集を効率的に行いたい！

解決したいこと	<p>①頻繁に変わる収集先を効率的に回れるような仕組みをつくりたい。</p> <p>②ごみ収集時に収集先の状態を記録し、いつでもどこでも記録を確認できるようにしたい。</p>
背景・現状	<p>現在、単独でごみステーションへごみを出すことが困難な方については、同居の親族や近隣住民の方などの協力により、対応いただいています。今後、同居の家族構成や近隣住民との関係性変化などが想定され、ごみ出しが困難になる方が増えることが想定されます。そのため、家庭ごみをごみステーションまで出しに行くことが困難な世帯（要介護1以上の世帯）を戸別訪問し、ごみを収集するとともに安否確認を行う「あんしんふれあい収集」を令和7年度より実施しています。戸別訪問は市職員が行っており、今後も市職員が実施する予定です。</p>
課題	<p>本事業はR9年度に全市へ展開し、累計250世帯へのごみ戸別収集（20件/1日、週に各1回）を目指しています。その際には、1日20件を限られた時間で巡回するタイトなスケジュールとなるため、効率的なごみ収集ルート設計が必要です。</p> <p>しかし、ごみの戸別収集にあたり、ショートステイ等により収集対象が急に不在となるケースや渋滞に巻き込まれるケースが想定されます。その際、収集ルートの柔軟な変更が必要ですが、巡回の順番を適当に変更すると、時間と巡回距離のロスにつながります。</p> <p>現在は収集員である市職員の土地勘や経験値に頼ったルート変更をしています。しかし、今後も土地勘のある職員が収集員に配置されるという確証はありません。</p> <p>また本事業では、収集と同時に安否確認を行います。その際にごみ出しの様子や身の回りの状況などを写真を含め記録し、その記録を随時確認することで対象者の変化を見逃さないようにする必要があります。</p> <p>現在は、「受け答えがはっきりしているか」等のチェック項目を書いた紙を用いて様子を記録しています。しかし、紙で記録すると、以前に記録した内容の参照がその場で出来ない等の懸念事項があります。</p>
提案して欲しいこと	<p>効率的な収集ルートを自動で作成する仕組み、及び安否確認の記録・確認がいつでもどこでもできる仕組み。</p>
想定する解決策	<p>ごみ収集ルートのナビゲーションと安否確認記録を一体化し、タブレット端末で行う など（課題①・②を一括で解決できることが望ましい）。</p>
提供できるリソース	<p>戸別訪問先の住所及び回収依頼物等の情報</p>
想定する事業実施時期	<p>可能であれば今年度中に実証実験を行い、事業の方向性を決めたい。</p>
予算措置の可能性	<p>現時点で予算措置はなし。必要に応じて翌年度以降予算要求の可能性あり。</p>
担当課	<p>ごみ資源循環課 環境クリーンセンター 施設管理係</p>